

教職員研修の充実にに向けた取り組みについて

1 中核市移行に伴って移譲される研修を実施するにあたって

■期待される効果

- 市の施策をふまえて明石のこどもたちを育む明石市職員としての自覚の醸成
- 明石のこどもたちを取り巻く環境や実態に応じた研修プログラム
- 教育委員会他課及び市長部局との連携による市の施策に連動した明石市オリジナルの研修プログラム

■課題

- 県教育委員会や他の中核市より充実した研修を実施するための人的配置
- 移譲に伴う事務量の増加
- 中核市にふさわしい研修施設の整備（保健センターの有効利用を計画中）

＜参考＞ 県内中核市の研修関係人員（H29年度）

明石市 指導主事 3 + 嘱託等 4	姫路市 指導主事 11 + 嘱託等 3	尼崎市 指導主事 8 + 嘱託等 13	西宮市 指導主事 5 + 嘱託等 4
-----------------------	------------------------	------------------------	-----------------------

2 移譲後に増加する年次研修の実施日数について

年次研修	H29	移譲後増加分	その他	合計
初任者研修	3日	13日 ・小中共通研修 ・授業実践研修 ・社会体験研修	6日（移行後も県で実施） ・一般研修 ・全県校外研修 ・全県宿泊研修	22日
2年目研修	2日	3日 ・小中共通研修 ・授業実践研修		5日
3年目研修	3日	2日 ・小中共通研修 ・授業実践研修		5日
5年次相当研修	0日	1日		1日
中堅教諭等資質 向上研修 （10年経験者研修）	0日	12日 ・小中共通研修 ・教科指導等研修 ・生徒指導等研修 ・得意分野づくり	※別途、各学校内で 20日実施	32日
15年次相当研修	0日	1日		1日

市長部局・関連教育機関との連携

◆「本のまち明石」「小学校1年生の30人学級編制」等の「こどもを核としたまちづくり」を進める明石市の施策を学び、人材開発課等と連携しながら、学校現場での教育活動に関連づけることができる研修を実施する。

例

- ・若手教師が「手話言語・障害者コミュニケーション条例」の主旨を理解し、市の手話通訳者から手話を学ぶ。
- ・「明石市こども総合支援条例」にもとづき発達支援センターや子育て支援課と連携し、支援の必要な児童生徒一人ひとりに寄り添った対応について研修する。



「あかし愛」あふれる教師の育成

◆教師自らが明石の自然・歴史・文化・産業をより深く学び、明石の教員としての自覚と誇りと愛着をもてる研修を実施する。

例

- ・天文科学館や文化博物館等と連携する等、地域人材を積極的に活用しながら明石の魅力を現地で学ぶフィールドワークを実施する。
- ・初任者研修講座で、市の新規採用者対象の『さかなのまち明石“体感”研修』に参加し、明石の魅力について共に学ぶ。



全市的なOJTの実施

◆若手教員の実践的指導力をはじめ、中堅・ベテランを含めた資質・指導力の向上をめざし、年次研修の仕組みを再構築する。

例

- ・初任から3年間固定の少人数グループを編成し、担当の指導主事を配置して授業づくり研修を実施する。特に中学校では各教科の専門性を高めることを目指す。
- ・「中堅教諭等資質向上研修」や「5年次相当研修」「15年次相当研修」と若手研修の連携を強化する。

